英語論文の書き方ワークショップのご提案

1. 目的

英語論文を書くにあたっての**最も基本的かつ重要な技術と素養**を学び、これまで「とりあえず」「なんとなく」英語論文を書かれていた方が、正確な知識と体系的な考えのもと、**自信をもって英語論文を執筆できる**ようにします。

2. 対象

① 英語論文の正しい書き方を基礎から学びたい**若手研究者（講師・ポスドク）、大学院生**

② 英語論文の正しい書き方を指導する際のバックボーンとなる知識を獲得したい教授、准教授等

3. 内容（約 6 時間）

- 英語論文を書く前に必要な準備と心構え
- スタイルとフォーマット
- 英語論文の構成方法
- 英語論文執筆に必要な文法
- 日本人研究者の英語論文を用いた事例研究

＊**講義は原則、日本語**で行われます。

＊会場およびプロジェクターはご用意をお願いしております。

4. 担当講師

氏名	ミリンダ・ハル (Melinda Hull)
国籍	米国
学歴	ニューヨーク州立大学　言語学専攻
経歴	1985 年以来、日本で英語指導に従事。この 10 年間は、東京大学や東北大学、東京医科大学などで英語論文の指導にあたる。英文校正や日本語論文の英語翻訳の経験も豊富で、論文執筆における日本人研究者のクセや誤りに知悉。 現在、東京工業大学特任准教授、東京大学医学部非常勤講師

5. 費用

定価：1 時間あたり 30,000 円（税抜）＋交通費等

＊ご予算に合わせて可能な限り対応致します。

6. 実績

① 通常ワークショップ（弊社主催）

2011 年 4 月以降、東京、大阪、名古屋にて 16 回開催。総参加人数は 422 人（3 月 31 日現在）

② 出張セミナー（一部抜粋）

実施時期	実施団体	参加人数
2012 年　1 月	九州大学グローバル COE「未来分子システム科学」	22 人
2012 年　2 月	独立行政法人理化学研究所	20 人
2012 年　6 月	慶應義塾大学 グローバル COE「環境共生・安全システムデザインの先導拠点」	約 30 人
2012 年　7 月	東京理科大学	25 人
2012 年　8 月	千葉大学理系女性教員キャリア支援室	60 人
2012 年　8 月	佐賀大学医学部社会医学講座	139 人
2012 年　8 月	弘前大学大学院保健学研究科	約 40 人
2012 年 10 月	独立行政法人産業技術総合研究所	85 人
2012 年 10 月	大阪大学医学部	15 人
2012 年 11 月	琉球大学うない研究者支援センター	60 人
2012 年 11 月	東北大学医学部教室員会	約 130 人
2013 年　1 月	島根大学医学部	109 人
2013 年　2 月	早稲田大学国際部	約 110 人
2013 年　3 月	山形大学医学部	約 60 人
2013 年　3 月	独立行政法人物質・材料研究機構	約 120 人
2013 年　5 月	東京大学東洋文化研究所	20 人
2013 年　7 月	鹿児島大学男女共同推進参画室	25 人
2013 年　8 月	岡山大学	250 人
2013 年　8 月	産業技術総合研究所 四国センターおよび関西センター	80 人

（実際の様子）

東京ワークショップ（2011 年 12 月）

産業技術総合研究所にて（2012 年 10 月）

7. 連絡先

カクタス・コミュニケーションズ株式会社

担当　屋宮　正享（おくみや　まさゆき）

TEL: 03-6269-9550　FAX: 03-4496-4557　Email: okumiya@cactus.co.jp

【参考資料】　これまでの受講者の声（一部）

英語と日本語の違いは知っていた（つもり）であったが、分析の着眼点が有益であった。ぜひ取り入れたい。
具体的な文献を用いた教授法は良かったと思う。フォーマットの重要性もよく理解できた。日本語でやっていただいた点でも、取り組みやすかったと思う。
ハル先生がエネルギッシュで一日中飽きることなく楽しく勉強することができました。日本語で助かりました。
このような内容のセミナーはこれまでなかったと思う。知りたいことをつめ込んだ内容でした。
内容がシンプルでわかりやすかった。ライティングの考え方がわかった。 （以上、2010 年 12 月東京開催分）
英語による論文の書き方指導の書籍は多く出回っていますが、今回のワークショップではここに来ないと聞くことができない情報を得られたと思います。特に日本人が実際に書いた英語を修正していくやり方はとても役立ちそうです。
自分の論文執筆のためだけでなく、スーパーバイザーとしての姿勢を正すのにも役立ちました。
英文校閲したにも関わらず、「poor English」と言われる理由がよくわかりました。
日本人の考えるイントロダクションと英語でのイントロダクションの違いがわかって良かった。
これまでこのような教育を受けてきたことがなかったので、eye opening だった。
今後の論文執筆時の拠り所となる内容でした。
論文の書き方に対する考えが、がらっと変わりました。（以上、2011 年 2 月東京開催分）
文法よりも構成の方が重要で校閲者まかせにできないということがわかり、とても役に立った。
自分がこれから論文を書く時だけでなく、学生に指導する時にも役立てることができそうです。
目からウロコでした。これまでの英語論文がなぜリジェクトされたのか、よくわかりました。
先生がパワフルで面白かったです。また、英語論文作成の勉強になり、とても有益だったと思います。
日本の教育では教えられてこなかった英語論文を書く上での当たり前を学べてとても勉強になりました。（以上、2011 年 2 月京都開催分）